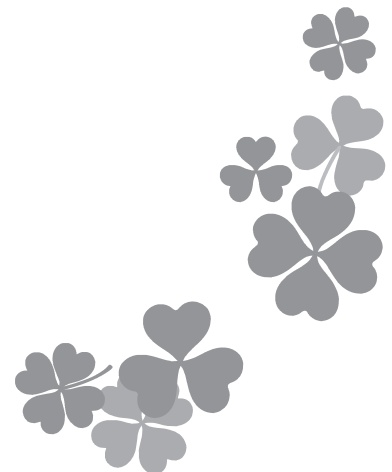


基 調 講 演

“今日も 明日も 精一杯”
～地域のために 自分のために～

曾於市大隅町坂元「おろんの会」事務局長 太良木 義文 氏



皆さん、こんにちは。ただいまご紹介いただきました「おろんの会」の太良木と申します。本日はこのような場で話す機会を与えて下さった関係の皆様には厚くお礼申し上げます。また、先ほど表彰を受けられた皆様方、本日は誠にありがとうございます。

私がこれからお話しするのは、私ども曾於市大隅町の片田舎で、地域のみならず活動しているごく些細な活動で、皆さんの意に沿えるかなと思っていますが、しばらくの間、お付き合いをお願いしたいと思います。

1 はじめに

「おろんの会」は、発足が平成24年、当初14名でスタートしまして、現在20名で活動しています。

活動の詳細につきましては、後ほど詳しく申し上げますが、疲弊していく地域を何とか出来ないか、また、戦中戦後苦勞されてきた方々も高齢者となり、何かお手伝いが出来れば、と始めた組織です。

会を重ねる毎にいろんなアイデアが出され、同時に、自分たちが置かれている実態も見えてきました。この活動で、仲間の絆も深まって来ました。私どもは、決して大それた活動をしている訳ではありませんが、経緯の一端を申し上げたいと思います。

「おろんの会」、少し風変わりな名前ですが、その由来を説明いたします。

「おろ（苳）」と言うのは、江戸時代この地一帯、私どもが活動している地域ですが、薩摩藩の牧場跡地で、馬が飼われておりました。ここで育てられた仔馬を一か所に追い込んで、捕まえておりましたが、この追い込んだ迫を「おろ」と言ったそうです。

今でも「おろん迫」とか「おろん尻」と呼ばれる地域が残っております。

これにヒントを得て、今後は人が集まる場所にしたい、との思いから「おろんの会」と命名しました。もちろん飲ん方の席で決めたわけでありませぬ。

地域には、市の教育委員会が設置した標柱があり、これにもその由来が記されております。

我々の活動の拠点である「おろんの館」は、国道10号線を鹿児島市から都城方向に北上して、亀割バイパスを登り切った牧之原から、県道63号線を志布志方面へ約5km走ったところで、ただ1ヶ所だけある信号のところにあります。



2 地域の概要

曾於市は、平成17年大隅、末吉、財部の3町が合併して誕生しました。

すでに13年が経過し、合併時42,300人の人口は、現在36,200人と、約6,000人減少しております。過疎化が急速に進んで、高齢化率は、現在約40%、少子高齢化と過疎化、人口減は、深刻な課題となっております。また、観光面におきましては、11月に県下三大祭のひとつ「弥五郎どん祭」が開催され、賑わう場所です。

私たちの大隅北校区は、世帯数約500戸・人口1100名・高齢化率47.9%で、10年後にはこれが60%位と予想されています。

現在、13の自治会から成り立っていますが、来年4月には5自治会を目指して協議が進められております。

また、地理的には、曾於市大隅町の北西部、霧島市福山町との境に位置し、標高350mと大隅半島でも高い場所に位置し、夏は涼しく住みやすい環境ですが、逆に冬は、県内でも有数の寒冷地です。

山林が多く、中山間地が広がり、戦後植林の杉などの伐採も急速に進んでいます。主な産業は、和牛生産・肥育、養豚、養鶏、稲作、甘藷、お茶といった第一次産業です。

大隅北校区域内の主な施設は、大隅北校区公民館、旧大隅町時代の役場支所の跡地です。また曾於市社会福祉協議会が運営している、小規模多機能ホーム「より愛さかもと」があり、利用者定員は22名となっております。

この「より愛さかもと」の協力があったからこそ、この我々の「おろんの会」の活動が前向きに出来たと感謝いたしております。改めて市社協にも感謝申し上げたいと思います。

大隅北保育園には、地域以外からの園児さんが沢山おられます。大隅北小学校は、児童数は26名の小規模校です。

農地ですが、10年ほど前からほ場整備が進められ、あと数年でほぼ終わると思います。農家にとっては、農作業の効率化が図られ、所得向上につながると期待されております。

以上、地域の概要につきまして説明いたしました。

では、これから本論に入らせていただきます。

演題を“今日も 明日も 精一杯”～地域のために 自分のために～と題してお話したいと思います。

3 「おろんの会」発足のきっかけ

中学校や、農協支所が地域から無くなり、平成21年、唯一残っていた店も無くなり、隣町まで行かないと買い物も出来なくなり、車を運転しない高齢者にとっては、大変不便な状態となりました。

このような地域の現状を、自分たちで出来ることがあれば、前向きに取り組もうと、「飲んだ勢い！」で話が弾んだところです。

これを「話だけで終わらせず、行動に移そう」と発起人会が平成24年に発足、地域の現状と課題を拾い出し、まずは組織を立ち上げることにいたしました。

そこで、地域の有志に呼びかけたところ、14名が賛同して、組織を立ち上げ、執行部を決めたところです。

さて、組織は出来たが、何から取り組んだらいいのか、地域の現状と課題について検討を始めました。地域の課題として、買い物が不便である。隣近所付き合いの希薄化、ゆっくり話し合う場所も欲しい。高齢化と人口減は深刻な問題等が挙げられました。しかし、これを解決する方法論までは先に進みませんでした。

結局「ま、飲ん方で、じっくい語ろや！」ということになりました。

4 「おろんの館」建設へ

焼酎を飲みながら出た結論は、「先ず人が集まる場所を作ろう。人が集まれば何か起こるのではないか」と、議論を重ね「おろんの館」建設を進めようと決定したわけです。

また、建設資金について、補助金の制度を模索しましたが、建物建設への補助制度はないとのことで断念しました。しかし、我々は計画を断念する事なく、「館」を建築することを再確認したところです。

そこで、先ず資金作りですが 会員一人当たり10,000円、地域住民の寄付も募り、隣の小規模多機能ホーム「より愛さかもと」の利用者さんも利用するということから、材料代として社会福祉協議会の助成等で大体の目安を付け、建設場所は「より愛さかもと」に隣接する土地を地主さんに相談、ご理解をいただきました。

敷地1,500平方mの中央に、3本柱が特徴的で、屋根は12角形の大変ユニークな東屋



「おろんの館」を建てることになりました。

建設は早速、会員の一人で宮大工の経験がある谷山富夫さんが、快く引き受けてくださり、農業の合間を縫って、材料調達から製材、切り込みを始めたところです。

切り込み作業が終わり、作業場での仮の組み立てを行いました。

特殊な構造で宮大工の技術が生かされており、仮組み立てした屋根部分を、一旦また全部取り外して、建設場所へと運ぶわけです。

いよいよ、その建設場所での組み立て作業が始まり、12角形の骨格も見えてきました。

12角形の屋根の骨格が出来上がり、建物を据え付ける準備をしているところです。

先ほど説明した通り、特殊な構造であることから、屋根全体をクレーンで釣り上げ、その後3本の柱を立て、屋根を組み込む工法で、作業は慎重に進みました。正に「おろんの館」の誕生です。



みんなで万歳三唱して、上棟をお祝いしました。



今に思えば・・・話が横道にそれますが「おろんの館」の役割を考えてみますと、試行錯誤しながら、苦勞して上棟までたどり着きました。

当事、この館が、集う場、語る場、心が休まる場になる様にと地域を挙げてお祝いいたしました。

「おろんの館」と銘打たれた建物が、「私たちの活動に大きな活力を与えてくれたことは間違いありません。

5 「おろんの館」上棟式

「おろんの館」の棟上げの時は、小規模多機能ホーム「より愛さかもと」の利用者、職員、近くの大隅北保育園児、近隣の方々が駆けつけ、当日は150名程の参加で大盛会でした。上棟の神事のあと、紅白の餅、飴玉、お



菓子、お金等撒いて安全祈願をいたしました。皆さんの所でも新築される時には、いろいろな祈願をされると思いますが、私どもも東屋といえども、一通りの祈願をいたしましたところです。また、早朝よりみんなで餅つきや、お祝いの料理等準備をして、宴席も賑やかに開催できました。

この棟上げ式の模様は、市議会の広報誌にも掲載されました。

大隅北保育園の園児たちのキャー、キャー言いながらの、餅拾い、お菓子拾いは、地域の賑わいを一層盛り上げてくれました。



上棟の記念撮影の様子ですが、多くの地域住民の皆さんに、棟上げを祝っていただきました。特に前列の車椅子の方々は、「より愛さかもと」の利用者の皆さんですが、「おいどんたちもまだまだ、元気にしちょかんといかなあ！」というような思いで、一緒に記念撮影となったわけです。

6 「おろんの館」完成

約9ヶ月間を費やして完成した「おろんの館」の広場の周囲には花壇も設置、イルミネーション飾り付け用の紅葉も植栽、中央にはいろり付きのテーブルも設えました。



「おろんの館」は「おろんの会」の活動の原点となり、地域のサロンや、お茶飲み会に活用されるようになり、季節ごとの食材等を販売する「おろん青空市場」、隔週ごとの鮮魚市場、さらにまた、季節ごとの催しなど地域住民の新たな活動に繋がり、地域住民同士の触れ合いの場、語らいの場として広がって来ました。

7 竣工祝賀会

上棟から3ヶ月後の12月に行った竣工祝賀会は、校区社協のクリスマス会を兼ねて行い、多くの皆さんに祝っていただきました。当日は、地域住民の方々にも、多数のお手伝いをいただき、また寄付金、寄贈品、野菜その他数々の物品等いただき、盛会に開催出来たところです。また、この祝賀会には、南日本新聞社からも取材に見えて、掲載していただき

ました。

ここまでが、「おろんの館」建設の経過となります。

8 活動状況

最大のイベントは、年3回開催の青空市場です。鮮魚市場は、第2と第4の土曜日に開催しております。

年間の主な活動を、活動別に紹介いたします。

(1) 青空市場

青空市場ですが「おろんの会」の最大のイベントとして、定期的に、4月、7月、12月の年3回開催しています。

開催2週間くらい前に、会員全員で綿密な打合わせ会を行います。

ただし、この時だけは、我々も好きな焼酎も飲まず、話し合うのが慣例です。

またPR活動は、自治会の協力を得て、校区内全戸数へチラシを配布しています。

開催前日には、スタッフ全員が、テント、机、イス等を持ち込むと同時に、一方では、ガネ用の足の短冊切り等、みんなで協力して準備を整えます。

いよいよ当日は朝早く集合して、地域の方々の協力も得ながら全ての準備を整え、だいたい10時には開店出来ています。

しかし、鮮魚販売は、仕入れの往復に時間がかかるため、10時半頃となります。

又、隣の小規模多機能ホーム「より愛さかもと」の利用者さんも、日頃作っている小間物、或いは駄菓子等を出店し、自分達で店番しながら会話を楽しんでおられます。

お客さんは、毎回およそ150名前後です。この日を楽しみに地域の皆さんが集まり、顔を合わせ、昔話しをしながら、安否確認にもつながっています。

又、近くの北保育園児も毎回参加して、会場を盛り上げてくれます。

店舗数は、おおよそ17店舗余りで、販売品目は、魚、おろんガネ、野菜、果物、生花、豆腐、炊き込みご飯、手作り駄菓子、その他季節の物が出品されます。

平成29年度で市の有線放送が無くなり、結局FM放送に変更になったわけですが、軽トラックに拡声器を取り付け、開催前日並びに当日の朝は、約1時間半かけて、校区内を巡回宣伝して周知を図っています。

青空市場の会場内には、来客用の机、椅子を設けていますので、ゆっくりした気持

ませんが「Yes」かなと思います。

以上が「おろんの会」の活動報告ですが、組織を代表する3名からコメントを頂きました。
ご紹介いたします。

「おろんの会」代表郡山嘉文さんのコメントです。

「地域が少しでも良くなれば」と始めた活動でした。無理せず、出来ることをコツコツとみんなで取り組んできて、いつの間にか7年が過ぎました。私も高齢となりましたが、地域のお役に、少しでもなるように、これからも頑張っていきます。
自分が納得できる人生であるために！

「おろんの会」会長 郡山 嘉文

続いて「より愛さかもと」管理者・伊勢悦子さんからのコメントです。

高齢になっても多少の物忘れがあっても、地域の一員としてつなぎ役となって下さるのが「おろんの会」です。

人生の最後まで役割をもって参加できる利用者様の生き生きとした笑顔は『支援者の宝物』です。

地域の皆様に感謝です。いつもありがとうございます。

そして これからもよろしくお願いします。

小規模多機能ホーム「より愛さかもと」
管理者 伊勢 悦子

最後に、会員である永田保夫さんからのコメントです。

鹿児島弁が全く分からないよそ者の私を、坂元地区は暖かく迎え入れてくださり、そして多くの先輩方とこうして地区のために少しでも貢献できることが楽しい。つくづくと坂元に来て良かったと思います。

新鮮な野菜、魚や、笑顔いっぱいの人々に囲まれ、私はしあわせ者です。

会員 永田 保夫

以上 コメントを紹介いたしました。

ここで、私たち会員の思いを述べさせていただきたいと思います。

ロゴです。魚の事を「いを」と言っていました。馬と「いを」で「うまいよ」の意味です。馬と魚で「おろんの市場の食材はうまいよ」の発想、ロゴマーク作成者の奥深いしゃれです。

17 まとめの1

以上が活動の報告ですが、全体を振り返り、まとめさせていただきます。

活動発足時、「地域を元気にしたい。隣近所の絆を大事にする環境づくりをしたい」などの思いでスタートいたしました。今考えてみますと少しずつですが、住民への広がりを感じております。

また、「おろんの館」建設は、地域住民の憩いの場、集いの場となり、住民同志の交流の場が広がっています。

私ども「おろんの会」の活動は、大きいことを目標とせず、身近な課題解決に向け、取り組んできました。階段を上るが如く、緩やかな前進だったと思います。このことは、会員みんなが、一致団結して積極的に協力した結果だと思えます。

「より愛さかもと」と共働・共存して、「おろんの会」が高齢者や障害者に寄り添った活動ができ、共同募金や福祉事業への理解が深まったと思えます。

特に、「より愛さかもと」の職員の話では、「利用者の皆様が、身近に知人や、馴染みの方々と触れ合う機会が増えました。また、おろんの市場で利用者さん達が、お菓子や季節の漬物等の販売もするようになり、施設全体が活気づいています。認知症のある方が落ち着きを取り戻し、生き生きとした表情になる等、施設利用の方の自立支援につながっています」と評価をいただいております。

18 まとめの2

会員同志の事では会員全員が集まり、計画を練り、役割分担を決め、共通の理念をもって活動しました。懇親会＝「飲みニケーション」では、更に絆を深めることが出来ました。飲ん方の懇親会が多かったのは、大政奉還後の五カ条の誓文にある「広く会議を興し万機公論に決すべし」を地で行ったという事ではないでしょうか。

また「金がないから、何も出来ない」ではなく「何とかやってみよう」の気持ちが大事なのかなあと思う事です。

「元気高齢者チャレンジ推進事業」にマッチしたかと聞かれますと、大きい声では言え

13 地域美化活動・環境整備

地域の美化活動・長寿会との連携ですが、会員の高齢者は、ほとんどが長寿会の会員で、ここでも共助共存で活動しております。

更にまた、「おろんの広場」の環境整備も会員、長寿会、「より愛さかもと」の利用者さん相携えて取り組んでおります。



14 児童・園児との交流

大隅北小学校児童との交流では、昔の遊びや軽スポーツを楽しんでいます。

また、大隅北保育園の園児の皆さんと一緒に、七夕飾りや、巻き寿司を作り、食事会をして、世代間交流を図っております。

15 他の組織との交流・視察受け入れ状況

他の組織との交流・視察受け入れ状況ですが、曾於市長も激励に来ていただきました。

財部町「水ノ久保自治会」の皆さんとも深い交流をさせていただきました。また、いちき串木野市・奄美市からの研修視察も受け入れ、当方も色々勉強させていただいたところです。霧島市「佳例川」・串良町の「やねだん」でも研修させていただきました。

我々「おろんの会」も、過去の活動に満足することなく、今後も外からの視察、研修を受け入れ、お互いの研鑽の場も開いていきたいと思っております。

16 新しいロゴ入りユニフォーム

発足以来、7年目にしてユニフォームを新調いたしました。会員はユニフォーム着用で気が引き締まり、心機一転活動に燃えております。

ユニフォームのロゴマークですが、魚偏に馬、さて何と読むでしょう。皆さん方の想像にお任せしたいと思います。当用漢字ではありません。

牧場で飼われていた馬と、おろん市場での鮮魚をあしらった



を対象に、クリスマスカードを添え、見守りを兼ねて宅配し、大変感謝されました。受ける側は勿論の事、宅配する会員も85歳で地域の厳しさを物語っています。

11 地域ほっとサービス

地域ほっとサービスにも取り組んでおります。

助け合いの気持ちの強い地域で、一部地域での限定ではありますが「話してみよう」「頼んでみよう」「あなたの困り事」を掲げ、住民主体で助け合うボランティア事業として行っています。

ゴミ出しや、買い物代行、庭の手入れなど、些細なことから相談を受け付け、対応しています。利用料金は30分300円です。



またある時は、土間で転んだ高齢者宅に、その日の内に、簡易の手すりを設置した事もあり、大変喜んでいただきました。

これまでの活動実績は、外出援助・買物支援 41件、病院送迎 17件、家事援助掃除等 12件、草刈り等 2件で総数 72件となりました。

12 「より愛さかもと」との共働・共存

共働・共存に心がけ、利用者さんも、青空市場への出店や、諸行事にも積極的に参加し、スタッフとなり、又お客さんとして、地域の方々と笑顔で接しておられます。

また、会員の高齢者は、小規模多機能ホームの運営推進員等の兼務者が多く、会の運営や活動には欠かせない存在となっております。

会員が「より愛さかもと」の庭木の手入れをしております。また90歳を超えた高齢の利用者さんが、「おろん広場」の草取りをしておられます。「としゃ取ってん、まだ出来いこちゃ、自分たつもせんななぁ！」というようなことで、この言葉、重みを感じませんか。

「より愛さかもと」の運動会は、秋空の下、笑顔が輝きます。「おろんの会」のメンバーも沢山参加させていただき、選手となり、あるいは支援者として一日を楽しませていただいております。

行い、笑いを誘いました。皆さん何歳だと思いでしょか。おん歳94歳のおばあちゃんです。

南日本新聞にも、掲載されたおろんピックですが、「かかし祭り」で、ボルトポーズなどを取り上げていただきました。同時にまた、大好評につき、道の駅「弥五郎の郷」に出張活動にも行き、帰ってきた時には、各アスリートの皆さん方もだいぶお疲れのようでした。



ちなみに、2018年、今年のテーマはNHK大河ドラマ「西郷どん」です。



「おろん茶屋」で、西郷どんがそばを打ち、見守っている糸さん、大久保一蔵どん、愛犬のつん等を、会員が8月初旬から制作にかかり、全員で飾りつけを行いました。

しかし、皆さんご存じのとおり、9月末の台風24号の時には、会長から避難命令が出まして、一時避難しましたが、さすがの西郷どんも「んにゃ、こらあっね！」というようなことで、一時退避されました。しかし、「そばがでくっとならずや、きばらんな！」と、また出てきて、活動していらっしゃいますので、是非皆様方、機会がありましたらおいでいただきたいと思います。

昔使っていたそば粉を挽く石臼や、ひき桶も展示しました。

その様子が、9月27日の南日本新聞に掲載され、紹介されました。

12月のイルミネーション作りと点灯ですが、大きな星型の骨組み作りに悪戦苦闘の末、館並びに広場に植栽した紅葉にイルミネーションを飾りつけ、早々に点灯しました。夜になると県道63号線からイルミネーションをきれいにすることができます。

また、青空市場を兼ねてのクリスマス会が大賑わい、来場者には温かい甘酒、豚汁が振舞われ、大変喜ばれました。

隣の小規模多機能ホームのクリスマス会に、会員がケーキを差し入れ、利用者さん達と楽しい時間を過ごしていただきました。

見守り活動・歳末助け合い活動の一環として、会員が作った甘酒を、80歳以上の方々

9 市場の開催効果

では、市場の開催効果について説明したいと思います。

- ①語らいの場 ②集いの場所
- ③買い物支援効果 ④新鮮なお魚
- ⑤情報交換 ⑥世代間交流
- ⑦大隅北校区の PR
- ⑧行動を起こせば何かが生まれるといった効果が考えられます。

10 季節ごとの催し紹介

また、季節に合った催しをしておりますので、それぞれ催し毎に説明していきたいと思
います。

まず3月のひな祭りですが、「おろんの館」
にひな人形を飾り、地域の人や、通りがかり
の人を和ませています。

5月は、子どもの日に合わせ、鯉のぼり、
五月人形等は、地域住民に呼びかけ、不要に
なった鯉のぼりを寄付していただいて、子供
たちの成長を祝って掲げています。



7月の七夕まつりですが、「小規模多機能ホーム」の利用者さんや、近くの北保育園児
の皆さん達と相携えて作り、それぞれの施設に飾り付けをします。

8月のお盆の迎え火ですが、地域住民に呼びかけ、使わなくなった提灯を提供して
いただいて、「おろんの館」の軒下に設置し、迎え火、送り火を灯しております。竹灯籠を手
作りしたこともありました。

次に、かかし作りですが、かかしの骨格作りの後、着せ付けを行います。かかし祭りの
開催は、秋の実りを祝うと同時に、地域に元気と賑わいを呼び込む為、会員で製作から設
置を行い、今年のテーマは「おろんピック」と銘打って開催しました。

地域の方々は勿論のこと、県内外或いは、通りすがりの方々が立ち寄って、カメラのシ
ャッターを押す姿も、度々見受けられました。また、備え付けの感想ノートに、数々の励
ましの言葉を書いていただきました。

「より愛さかもと」の利用者さんが、陸上界の覇者・ボルト選手のポーズで記念撮影を

(3) 鮮魚市場

私共の地域は海を持たない地域で、近くにあった商店も閉店した事から、新鮮な魚介類を口にする機会が少なく、栄養状態の心配もあったことから「新鮮な魚が手に入りにくい」という声に応えられないか、スタッフ全員で話し合いました。

その結果、この鮮魚市を月2回（土曜日）開催することとし、仕入れから販売まで会員が行います。販売前日と当日の朝は、青空市の手法と同じく軽トラックの拡声器



で放送して回るので、これを聞いた住民が「おろんの館」の前に行列を作るほど集まり、新鮮な魚が1時間ほどで売り切れます。一時は整理券を発行したこともありました。

魚の仕入れは、会員の有志4人が交代で、朝6時に軽トラックで片道60kmの肝付町内之浦漁港へ出かけ、途中で、仲買人さんと電話連絡をとり、状況把握をいたします。

市場の中では、旬の魚の値段、あるいは大きさ等を吟味して仲買人さんにアドバイスをもらいながら、競り落としてもらいます。



魚の種類は、大衆魚のサバ、アジ、カマスなどが主で、高級魚の扱いは少ないようです。

魚の販売は、新鮮さと値段では、どここの魚屋さんにも負けないと大好評です。



それでは、今年7月の青空市場の様子をビデオで少々ご覧ください。

イベントの様子（ビデオで放映）

皆さん、青空市の様子、鮮魚市の様子は、如何だったでしょうか。

ちで、楽しむ事が出来ます。

食べる楽しみは勿論の事、久しぶりに会った者同士は、話す楽しみが一番の様です。高齢者の皆さんは、飲み食いよりも会話の方が弾んでいます。

また、会場設営の労力軽減を図る目的で、軽トラックを持ち込んで、店舗代用として使った事もあります。



(2) イベントの開催



市場を盛り上げるために、発動機愛好会の皆さんが、石油発動機、ディーゼル発動機等、小型から大型まで持ち込み、実際エンジンを掛けてお客様にPRするなどのイベントも開催しております。

イベントを盛り上げるため、スイカ割りやビンゴゲームなども実施しました。また、飲み物等は、無償提供しています。

地元生産者の方々にも、穀類、野菜類、シイタケなど出店を依頼しております。高齢者の方からは、そまげ、からいもん餅、よもぎ餅などの他、梅干し、ラッキョウなど出店していただき、とても好評です。

買物を楽しんでおられますが、中年の皆さん方は、会話よりも先ずは買い物といったところでしょうか。

子供たちも自分達でタケノコを掘って来て、店を開いてくれました。地域の子供たちも一翼を担っております。まさに青空市場は子どもから大人まで、更には障害をお持ちの方まで全員参加のイベントと言えます。

園児たちが来てくれると、会場に花が咲いた様に賑やかになります。夏はかき氷、冬はポテトチップスなどを振舞っています。

さらには、共同募金への協力は、募金箱を設置して毎回呼び掛けて協力しています。



14名で発足した『おろんの会』早7年が過ぎました。
若い協力者も欲しいところです。
汗水たらして、難儀した割には儲けが少ない。
愚痴は言っても、前には進まない。
ボランティアだから、仕方がない。「我慢するか！」
でも せめて焼酎くらいみんなで飲みたいよ。
じいさん、ばあさんが喜んでくれたら最高の報酬。
会のメンバーだけが味わう「心の財産！」
この財産売ることは出来ないけど、少し高いよ！
冬でも 私たちの心は 暖ったかいから

会員みんなの気持ちをご理解下さい。

19 終わりに

以上ご覧いただきましたが、終わりに私の方から少し申し上げたいと思います
活動を計画したり、会員の役割を決めたり、出店者への依頼、地域住民への開催案内を
したり、事業をするには多くの労力も必要とします。また、難儀・苦労もします。夏の暑
い時、冬の寒い時もあります。来場者の健康状態にも気配りしなければなりません。

それでも、終わった後は達成感を味わっています。何よりも、文句ひとつ言わず頑張っ
ているスタッフに感謝です。喜んでくれる人がいれば、自分も嬉しくなります。

地域の人たちが、元気で、幸せに暮らせるように、今後も「おろんの会」の活動を続け
たいと思っています。

昔のように隣近所の絆を大事にする地域にしたい、お互い支え合い助け合っていく地域
としたい、という会員の思いで、些細な活動を継続して実施出来たのは、「おろんの館」
建設と「より愛さかもと」の協働、協調にあると思います。

館は、地域住民の新たな憩いの場となり、住民同志の交流が増えてきました。また会員
も、この館を拠点として活動しております。「より愛さかもと」の職員の皆さんには、会
の運営への協力はもちろんのこと、多面にわたりご指導をいただきました。

我々の「おろんの会」も高齢化の波に諸にぶつかっていますが、長寿社会になればなる
ほど、高齢者夫婦だけの世帯・独り住まいの高齢者世帯は増えると思われま



高齢者には、豊富な経験と、長い人生の中で培ってきた知恵もあります。いろんな課題がある地域社会で、その課題解決に、元気高齢者は余力を振り絞って貢献すべきではないかと考えます。

生活を継続することに困っている人もおられます。身体が不自由で日常生活に困っている人もおられます。年を取り、激変していく社会の中で、孤立している人も皆無ではありません。判断力が衰えていく中で、経済的に不利な扱いを受けたり、騙されることも想定されます。

社会的に弱い立場にある方々に対して、その人に合った、寄り添った生き方をしようではありませんか。そのことが、個人でできる社会貢献ではないでしょうか。

私共、「おろんの会」は、誰かが困った時、また支援してほしい人のために、出来ることを、みんなと一緒に取り組んで行きたいと思っております。

「今日も 明日も 精一杯」～地域のために 自分のために～

今後も、会員全員で力を合わせて、住みやすい地域作りに邁進したいと考えております。不慣れから説明不足や言い間違いもあったと思いますが、少しでも皆さん方の活動の参考になれば幸いです。

発表にあたり、ご協力・ご指導いただきました皆様に感謝して、「おろんの会」を代表して話しをさせていただきました。

ご清聴ありがとうございました。